



知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸

末崎 孝幸氏

1945年生まれ。1968年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員(調査本部長)を務める。2004年に退職。Facebook上での氏のトリビア投稿は好評を博している。



鴨南蛮の「南蛮」とは

南蛮とは室町後期から江戸時代にかけて、ルソン(フィリピン)、シャム(タイ)、ジャワ(インドネシア)およびその他の南洋諸島のことをいい、またその方面から来たスペイン人、ポルトガル人を南蛮(あるいは南蛮人)といった。

一方、「鴨南蛮」といえば鴨とネギが具に使われるそば屋のメニューで、鴨の脂がのる冬場がおいしい時期である。この場合、具のネギのことを「南蛮」という。これは江戸時代に来日した南蛮人が健康保持のためにネギを好んで食べたためといわれている。

EDWIN (エドウィンブランドの由来)

ジーンズを中心としたデニムウェアを販売するEDWINは、戦後「常見米八商店」として創業、アメリカからデニムを輸入販売し、その後国内で縫製を始め、昭和36年に社名を「エドウィン」に変更している。

「EDWIN」はDENIM(デニム)の「DE」の字を入れ替え、「NIM」を180度回転させて「WIN」とし、EDWINとなったものである。





長期投資仲間通信「インベストライフ」

「EDWIN」には DENIM という単語のアルファベットを自由に並べ換えていることから、DENIM から生まれる自由な発想やものづくりへのスピリットという意味が込められているともいえよう。

吉田茂の飼い犬の名前

吉田茂は愛犬家として知られており、大磯の邸宅では10頭以上の犬と暮らしていた。柴犬、スピッツなどのほか、駐英大使を務めていたためか、スコットランド原産のケアーン・テリアを好んで飼っていたという。

昭和26年9月のサンフランシスコ講和条約締結後に持ち帰ったのはケアーン・テリア種のつがいで名前は「サン」と「フラン」。そして2頭から生まれた仔犬の1頭には「シスコ」と命名したという。ほかに「ブランデー」「ウイスキー」「シェリー」と名付けたが、葉巻とシェリー酒を好んだ吉田茂の一端がうかがえるエピソードだ。

日本が負担していた米兵のチョコレート

戦後まもない日本は深刻な食糧危機に陥っていた。そうした中、進駐軍の米兵がジープから身を乗り出して日本の子供たちにチョコレートやガムを配る映像を見た人は多いことだろう。「ギブ・ミー・チョコレート」とねだる子供と、得意げな米兵の姿は、困窮していた占領下の日本を象徴するものであった。

しかし、このチョコレートやガムの費用はすべて日本が負担させられていたのである。アメリカ製のチョコやガムを日本政府が購入し、米兵はただ配っていただけだ。「やさしい米兵」を演出して反米感情を抑えることが目的だったのである。



パラリンピックの「パラ」とは？

1948年7月、ロンドンオリンピックの開会式と並行して「ストーク・マンデビル競技大会」という競技会が開催された。これがパラリンピックの原型であり、当時第二次世界大戦で脊髄を損傷した兵士を中心にリハビリを行っていた「ストーク・マンデビル病院」では手術ではなく、リハビリの一環としてスポーツをすることを推奨していた。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

下半身不随の兵士のためのスポーツ大会であることから、下半身不随を意味する「paraplegia」と「olympic」をつなげて「paralympic」としたのである。第1回パラリンピックは1960年のローマ大会（当時の名称は第9回ストック・マンデビル競技大会）であり、IOC が直接大会に関わるようになったのは1988年のソウル大会であり、ここから「パラリンピック」が正式名称となったのである。